

被爆74周年・平和の原点を見つめ
この地球から核と戦争をなくしましょう

第27回ヒロシマ市民の描いた

原爆 絵画展報告集

2019年8月24日(土)

2019年8月25日(日)

坂戸市文化施設オルモ



特別企画：被爆者のお話 原 明範さん

主催：原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

後援：広島市、長崎市、埼玉県・坂戸市・鶴ヶ島市及び各教育委員会、丸木美術館

埼玉新聞社、テレ玉、FM NACK5、NHKさいたま放送局

朝日新聞社さいたま総局、毎日新聞さいたま支局、

東京新聞さいたま支局、琉球新報社

被爆74年 第27回ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

開催日時 2019年 8月24日（土） 11:00～19:00
2019年 8月25日（日） 9:30～18:00
開催場所 坂戸市文化施設オルモ
主 催 原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

展示

- * ヒロシマ市民の描いた原爆絵画 No.35 (30枚) No.61 (29枚)
- * 丸木位里・俊 「原爆の図」複製：第6部「原子野」 第9部「焼津」
- * 写真及びパネル

「原爆と人間」ヒロシマ・ナガサキ 「なぜ原爆は投下されたか」

「沖縄戦・国内唯一の地上戦から70年」写真

「3・11巨大津波襲来」写真 「東電福島原発事故」写真

「日本の中国侵略」写真

- * 特別展示資料「核のゴミの発生と処分ほか」

- * 展示品 原爆瓦、ガラス片

- * アオギリ植木鉢

子どもたちの未来に希望を与えるアオギリ2世

アオギリ2世関連写真

新聞記事「緑で平和を育てよう」など

- * 『ビデオ上映』

戦争・子どもたちの遺言」「はだしのゲン」他



大きく育った市内浅羽野中学校
のアオギリ2世と表示板

8月25日特別企画・被爆体験を次々世代に引き継ぐ

- 10時～ トークタイム『若者が考える原爆』(司会 武井誠さん)
パネリスト・西野ひかるさん、田中萌愛さん、北村悠人さん、
加藤咲さん
- 13時半～ * 平和紙芝居・あじさいの会
「コスモス」「ガジュマルは知っていた」
* 被爆者のお話 原 明範さん
* 報告・ヒロシマ子ども代表団 西野ひかるさん

【入場者数】 8月24日(89人) 25日(190人) 計279人

【アンケート回収】 計 123枚

地域から原爆・原発ゼロと核兵器の廃止を訴えよう！

原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会
代表 白石 俊夫

広島・長崎への原爆投下から 74 年、昨年に続き若者を広島平和記念式典に派遣することができました。戦争体験者が年々減少する一方、世界にはきな臭いにおいが・・特に 1987 年の中距離核戦力全廃条約調印により米国とロシアがヨーロッパに配備した中距離弾道ミサイルと巡航ミサイルは、1991 年 5 月には両国で廃棄されていましたが、今年 2019 年 8 月に条約は失効し「核なき世界」の実現を訴えてきた被爆者や平和団体に怒りと失望をもたらしました。条約失効のわずか 16 日後に、米国がミサイル発射実験を、ロシアも 21 日に実験をスタートしたとの報道があり、核を含めた軍拡競争が本格化するのではないかと心配です。私たちの取り組むべき課題は 2016 年に国連で成立した「核兵器禁止条約」の批准を日本政府に求めていくこと、そして「中距離核戦力全廃条約」を回復させるなど「核なき世界」を目指していくことです。核軍縮を多くの市民に訴えていくことが求められています。

さらに、国内では東電福島第一原発事故から 8 年 6 ヶ月が経過、炉心を冷やす注水や地下水の流入により 1 日 150 トンの汚染水が生じ続けています。貯蔵タンクは 1000 基に迫っています。原発事故は甚大で後始末は困難を極めています。原発事故等を再び起させないため「原発ゼロ」を求め、根気よく運動を、そして多くの市民に呼び掛けていくことが必要です。

今年も絵画展は、多くの若者がボランティアなどで関わり成功しました。特別企画では被爆者の語り部が原爆投下の悲惨さを語り、多くの参加者の感想文には「被爆者の苦しみが伝わった」「原爆の恐ろしさを知った」等の言葉が。そしてパネルディスカッション「若者の考える原爆」は、参加者が平和の重要さを考えさせる時間となりました。毎年協力をいただいている「あじさいの会」の紙芝居「コスモス」「ガジュマルは知っていた」は観る人びとを感動させました。ヒロシマへ派遣された若者の「原爆投下の現状を肌で感じた」という報告は会場から大きな拍手があるなど特別企画は大成功でした。

今年もまた、絵画展成功のために、多くの人々のカンパや支援をいただきましたことを、心からお礼申し上げます。

トークタイム 「若者が考える原爆」

【発言者】 武井誠(司会)、 加藤咲(社会人 21歳)、 北村悠人(大学 3年生)
西野ひかる(大学 1年生)、 田中萌愛(高校 3年生)

【開催趣旨】

昨年、ボランティアの学生さんたちと、急きょ原爆に対する考え方や意見を交わす場が設けられた。そこで、新たな見方が生まれたり、改めて考えることができた。今年は、高校生の参加者も加えて若者の原爆に対する思いや、考えを共有し、今後の継承の仕方、理解を深める。(加藤 咲)

【知っていたこと、勉強したこと、絵画展で考えが変わったこと】

北村：私は去年も参加した。来てみて思ったこと、写真、絵を見て当初思っていたことがくつがえった。心が痛む。今の時代がどれだけ平和で幸せか改めて感じる良い機会だ。知識として取り入れるだけでなく、ここでは肌で感じる。価値観が変わる。

田中：以前読んだ本で、文字で感じたことと、ここで写真や絵で感じたことは違った。言葉と絵を通して今まで戦争に対して思っていたことがガラッと変わった。

西野：私は今年「ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表団」に参加した。最近まで原爆に関する絵や写真が怖いものだと思い、知る機会がなかった。たまたま誘ってもらい、今回学ぶことができた。

フロア(志摩)：原爆での悲惨さを感じた。これからグローバル社会になって、社会に出たときにこんなに悲惨なことがあった、唯一の戦争被爆国日本で生まれたという自覚をもって学習して世界に行ってみたい。

【今まで文字で知っていたことと、ここにきて感じたこと、何が違うのか】

加藤：表面的な知識しかなかったが、この場で学んだことは、未来が奪われて、

放射能の見えない不安と鬪わなくてはならなかつたこと、一瞬だけでなくずっと続いていくものだと感じた。

フロア(傳法谷)：絵を見て教科書では伝わらない部分をここで感じた。

フロア(山口)：「ヒロシマの有る国で」を中学生の時以来、久しぶりに聴いて、歌詞の意味を理解できた。

武井：戦争は人が死ぬこと。あるいは戦地に行くというのは人を殺しに行くこと技術が発達していくほど戦争がゲームのように見えてくる。気をつけたい。亡くなる方や苦しむ方がいるということがリアルにわかるのが絵画だと思う。書いた人の思いがこもっているから、ある意味で写真よりリアル。

【戦争はなぜ起こるか】

西野：戦争を知らない人や、学ぼうとしない人が戦争を起こす。被爆された方は学んだことを周りの人に伝えてほしいと言っていた。戦争を無くすには自分から戦争や原爆の悲惨さを伝えていくことが大事だと思う。

田中：食糧問題もある。また、戦争を考えるのは権力を持っている人で、戦争を指示されるのは国民。国民も意見、知識をもったうえで権力者を選ばなければならない。

北村：食糧、資源、土地の奪い合い、国家や政府に対する不満、異なる宗教の対立、侵略が戦争の起る原因だと思う。武力ではなく、話し合いをしていかないといけない。問題が起る前に、政府や国民一人一人が意識して生活していかなければならないと思う。

武井：「灯る戦の火種を消す(「ヒロシマの有る国で」歌詞)」ということですね。

加藤：大事なものを守るために戦争は行われていると思う。広島の原爆投下も、アメリカが早く戦争を終わりにしたかった、威力を見せたかったとも取れるが、自分の国を守るために他国を攻撃しなければならなかつたと思う。被爆者の方で「思いやりがあれば、思いやりをもつた人が集まれば、優しい声をかけられる人が多くいたら戦争がなくなると思う」というお話をされている方がいた。私もそう思った、と同時に自分の心ひとつで変われる

なら、そんなに難しいことではないのかなとも思った。

フロア（山本）：76歳です。父がフィリピンで戦死したので幼い時から戦争と平和について考えてきた。ある原爆の被害者から聞いた話で、原爆を実際に落とした人、命令した人、原爆を作った人、武器弾薬で利益を生む人がいることを聞いた。人を殺すことを喜んではいないと思うが、一部の人にとっては利益にもなっている。

フロア（水沼）：金儲けのための戦争だと思う。一部の人が儲かる。戦争はそれに尽きると思っている。

フロア（志摩）：国家が主観（自国の利益）でしか物事を見ていない時に戦争は起くると思う。太平洋戦争の時も、国家の暴走行為があったと思う。違う方法がなかったのかなと思う。

武井：戦争は報復に次ぐ報復の繰り返し。原爆に至るまでの日本の加害の部分の展示もされている。喧嘩も戦争も始めてしまうと終わるのが大変。それぞれに原因がある。

フロア（笈田）：経済がまわらなくなったら、武器を作って儲けを考える一部の人の考えが戦争の根の部分なのではないか。加害者でもあるので日本が満州で何をしてきたのかも目を向けていかなければならない。一方で、被害者でもある。思いやりを持つことで戦争を減らせるのではないかと思う。子どもも代表団の引率をした時にも、子どもの感想として多くあがる。

武井：代表団の子どもたちの言葉で印象に残っているものが2つある。

1つ目は戦争をなくすには世界中に友だちをたくさんつくる。友だちの上に残酷な原爆は落とせないし、その国とは戦争をしたくない。

2つ目は、学校で原爆について教えると「原爆が恐ろしいことがよくわかつた」と答えるが、広島に行くと「恐ろしいことが分からぬことがわかつた」と。つまり戦争、原爆は経験したことのない人の想像を超えており、どれだけ悲惨なものかわからないことがわかる。

フロア（山本）：日本は憲法9条で、戦争をしない、武器を持たないとしている。

地球上にはすでに何万個の核がある。まず、核兵器をなくそう。そして通

常兵器をなくそう。物事を解決するのに暴力、武力を使わない。幼少期からそういう教育をしてくことが大切だ。

フロア（池辺）：被爆の受け身の方を考えて今まで絵画展をやってきた。いつも受け身ではいけない。加害者がいたから受け身になったということをこの会で取り組まないといけないと思っていた。この話の中でそのような話が出て、会が前進しているのを感じる。

武井：ドイツの平和教育はアウシュビッツから。日本は原爆から。大きな違いは加害と被害。事務局で参考にして、また次を考えていく。

【今までの話を踏まえて改めて考えなくてはならないことは】

加藤：今までの自分の考えとは全く違う意見が聞けて、改めて考えいかなければならないと思った。

北村：自分が思っていたよりも、いろんな理由がある。全ての人が戦争に反対しているのではなく、一部の人が儲けのために戦争を起こすということをここに来たから聞くことができた。

武井：ここに来ていない若者たちはどうですか？ こういう話をしますか？

北村：あまり、考えていないと思う。

武井：私も、こと外の、温度差はあるかなあと感じているところです。

田中：教科書や学校で学んだことで戦争について知った気になっていた。教科書や本に取り上げられていることは一部だと思ったので自分で考えいかなければならぬないと感じた。自分で足を運んで、自分で感じたことを大切にしていくことが、これからを考える上で必要なことだと思った。

西野：過去から学ぶことは大切だと思った。過去にされたことを報復するのは良くない。根に持つてはいけないと思った。

武井：本旨からは外れるが、日本と韓国の問題が今ある。表面的な報道だけではなく歴史的なことも踏まえて学んでほしい。国際関係の中で、「水に流しきれないもの」は何かと考えていくことも必要。

【感想】

フロア（猪鼻）：こういう機会が減っている。自分から行動していかないといけない。いろんな人の意見を聞いて、考えていかないと古い考え方だとわかれてしまうので、授業でなく経験を聞いて、伝える人を増やすことが必要だと思う。

フロア（荒木）：動物は喧嘩をするけど戦争はしない。コミュニケーションの中で解決する。人間はどういう折り合いをつけていくのか考えていかなければならぬと思う。

武井：個人的な喧嘩と戦争は違うというのも、確かに一つの観点だろう。

【「もし攻められたら？」という問いに、どう答えるか。】

フロア（水沼）：南米のコスタリカは、武器を捨てた。映画もあるが、コスタリカのように、周りの国が「この国をつぶしてはもったいない、世界の損失だ」と思うほどになるといいと思う。

フロア（山本）：国を守るということは、国民生活を豊かにしたらいいと思う。戦争を起こす条件をなくしていいと思う。

田中：もし、日本が攻められたらと考えたことがなかった。学校でも友達と、ニュースになっている政治や、朝鮮のことについて話すことがあるので自分の意見を持って発信していく。戦争を経験している人も少なくなってきたるので、数少ない場に自分からアクセスしていくことも必要だと思った。

西野：今まで攻められるとあまり考えてなかつた。もし攻められたとして、相手も人間だから良心はあると思う。良心に訴えかけて、平和は大事だと伝えたらいいと思う。

武井：無知と偏見が戦争を生む。言葉が違っても、理解することが必要。

北村：日本が攻められたら、とは 21 年間考えなかつた。攻められた時に、正当防衛として攻めてしまうとどんどん大きくなってしまう。そうならないよう、武器を持たずに相手とコミュニケーションをとることが大事。そうなつたらいいなと思う。

フロア（山口）：いろんな年代の人の話を聞いたり、話したりできるのはいい。

続けていくには人の口で語り継いでいくのがいいと思う。

フロア（糟谷）：今まで考えたことがなかったという意見が多く出たので、子どもの頃からそういうのを伝えていく活動ができたらいいと思う。また、攻められないような外交をしていくことも大事だと思う。

武井：たくさん的人が亡くなっている戦争について、実態を知らないものが表面的な議論で軽々しく扱うなという感想もあるかもしれない。しかし、うつむいていてもなにも解決しない。私は若者の前向きな発言を大事にしたい。大切なことがいくつも指摘されていたと思う

加藤：もし攻められたら、私はやられるしかない。戦うための武器もつくりたくない。他の人、海外の人でも傷つけるようなことはしたくないと思う。そのためには、先ほどの意見のように他国との外交を深めなければならず、それは権力を持った人次第なので私は選挙に行こうと思う。私もまだ考えが浅い部分があるし、世の中には考えていない人もいると思う。他の平和活動団体の言葉で「平和への活動は微力だけど無力ではない」とあり、今やっていることが世界に広がっていくとは考えづらいけど、活動をやめないようにしたい。戦争について若い人で話す機会もなかなか無く、経験を積まれた方のお話を聞けることも貴重なので、今回このような会ができるよかったです。

武井：一步ずつ、休まず、諦めず、ですね。

【編集責任 加藤 咲 武井 誠】



ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表団と共に

西野 ひかる



当日、東京駅に集合した子ども代表団。

はじめに

私がこの活動を知ったのは、近所の掃除に親の代理で行ったころで武井さんにこの活動に引率として行ってみないかと誘われたためです。僕は原爆の絵や、写真といったものが怖くて、今まで避けていました。

しかし、広島の原爆は避けてはいけない、知らなければならない問題だと思うようになりこの活動に参加しました。代表団のメンバーは学校の違う小中学生10名と、引率の大人4名の計14名です。

事前学習会では、行く前に2つ大事なことをお話ししていただきました。まず、自分から学びに行くこと、そして見聞きしたことから、しっかり考えてイメージをすることです。そのおかげで、より印象深く広島での体験が記憶に残りました。

8月4日

まず、広島の原爆ドーム周辺を見学。鉄が融解してひしやげた部分、レンガが吹き飛んでいる部分があり、当時どれだけ強い衝撃と熱波を受けたのか伝わってきました。原爆ドームは社会の教科書でしか見たことがありませんでしたが、教科書では想像できなかった当時の状況が思い浮かびました。



次に平和記念資料館に行きました。資料館には、この会場のような絵も展示されていました。原爆の被害に遭った方々の描いた絵が飾ってありました。これが本当にあったことなのかと疑ってしまうほど悲惨な絵が飾られていて見ていて胸が苦しくなりました。資料館ではほかにも様々な資料がありましたが、最初の展示物で胸がいっぱいになってしまって、途中からは見ることしかできませんでした。一番印象に残っているのは、建物に押しつぶされて水も飲めずに焼け死ん

でいった男子生徒たちの絵です。水を下さい、水を下さい、という声が聞こえてくるけど、あげられる水はなく、燃え盛る炎に巻き込まれていった、と書いてあり、この絵を描いた方の当時の悲痛さと、男子学生の苦しみが伝わってきました。

被爆直後は生き延びても、放射線の影響で黒い斑点ができて下痢や嘔吐で死んでいった人がたくさんいました。当時は放射線のことが知られていなかったため、謎の病気として扱われていました。放射線で死んでいった人々はとても怖く、苦しかったと思います。

次に、被爆 74 周年原水爆禁止世界大会開会総会に参加。そこで被爆者の話を聞きました。この方は 8 歳の時に友達と防火水槽の近くで遊んでいて被爆、友達と一緒にいた母親がけがを負い、途中公園で休んでいると、友達は水を一口もらつて息を引き取り、家について数日後に今度はお母さんも亡くなってしまったそうです。

ホテルで夕食を食べて一日目の感想をまとめました。1 日目は原爆の悲惨さを知りました。原爆がもう使われてはいけない兵器であると考え、では、どのようにすれば原爆が使われない世の中になるのか、自分にできることは?ということを考え始めました。

8月5日

朝、子ども慰靈祭に参加しました。子ども慰靈祭は一家全滅で引き取り手がない遺骨や、名前の判明しない遺骨が埋められている広島戦災供養塔前で行われました。各県代表団の代表が平和への誓いをスピーチ、埼玉も小学 6 年生の子がスピーチをしました。

終わったところで、平和公園で語り部の方の話を伺いながら、慰靈碑をめぐりました。(相生橋、原爆の子の像、慈仙寺の墓石、爆心地の島病院をフィールドワーク)。原爆ドーム前で、二度と原爆が投下されないよう祈りながらダイ・イン。これは犠牲者のように大地に横たわり戦争反対を表明する抗議活動です。戦争を起こさせないためにこうして平和への訴えを少しでもしていくことが大切なのだと思いました。

次に「メッセージ from ヒロシマ」の会場で原爆の被害に遭った女性の話を聞きました。この方は広島市でどんなものを見たのか、アメリカに行って学生に話をしたそうです。そのおかげでアメリカでは広島の原爆を伝えていこうという活動が行われるようになったそうで最後に周りに伝えることが大切なのだとお話を聞いていただきました。僕は一日目で疑問に思っていた原爆を使われない世の中にするため自分にできることとはこのことなのだと思いました。

お昼を食べて、高校生を中心となって運営されている企画に参加しました。朝鮮学校の方々の舞踊、広島の蛇円太鼓、被爆アオギリの紙芝居を鑑賞したり、僕も混ざって○×クイズをしたりダンスを踊って楽しく広島のことについて学びました。思い思いの平和への願いを書いて張り付ける企画があり、みんな真剣に考えていました。

その後、被爆アオギリを平和公園に戻って見に行きました。被爆アオギリは爆風をまともに受け、枝葉がすべてなくなり、幹の半分がなくなった状況から復活して、種を作りました。当時の広島ではこのアオギリが人々に希望を与えたといいます。現在アオギリの種は国内外問わず、会場に飾ってあるようにこの周辺でも植えられています。僕の家の近くにも公園があって、そこに小学生の頃から植わっています。最近まで全然知らなくて、なんで植えたのだろうと思っていました。アオギリのことが分かった今、なるべくそのことを伝えていこうと思いま

す。

その後追悼平和祈念館に行きました。追悼平和祈念館では、被爆した方の映像を見て、朗読会に参加しました。後でホテルに帰って声に出して一つ気になつた詩を読んでみると朗読会で見て読んだだけの時と違い、書いた人の当時の想いが伝わってきました。

2日目の最後はお好み焼き屋にいって夕飯に広島のお好み焼きを食べました。

自室に帰って一日のまとめをしました。どうすれば原爆が使われない世の中になるのか、自分にできることはなのかという疑問は自分から知ったことを周囲に発信していくことが解決策だと考えました。また、詩の朗読では怖い絵が苦手な僕でも、抵抗なく内容が入ってきました。こういった目で見るのではなく、言

葉で伝えてもらうのも内容をイメージしたり、そこから考えたりしやすいのではないかと、考えました。

8月6日

天気予報では雨だったのですが、曇時々小雨。10時頃には晴れました。

平和公園での平和祈念式典に参列しました。会場には入れず、僕たちは公園内に複数あるモニターで式典の様子を見ました。セミが居て子どもたちは最初、セミを捕まえるのに集中。しかし式が始まると、モニターの前で座って、真剣に式の様子を見始めました。

原爆投下時刻に黙とうをささげるところでは、それまで少しづつわづついていた会場は静かになり、セミの鳴き声だけがしていました。3日間で見たこと、聞いたこと学んだこと、イメージしたことが思い出され、その時から74年前に起きた広島での惨劇が頭に思い浮かびました。亡くなった方々の冥福を祈り、もう二度と核兵器が使われない世の中になるよう願いました。

その後は広島の路面電車とフェリーに乗って宮島に移動しました。初日よりも子供たちが打ち解けて宮島観光はみんなで楽めていたと思います。帰る途中の電車ではさすがに疲れたのか子供たちの何人かは寝てしまっていました。平和公園前で下車、広島平和公園で一人一人が今回の旅で考えたことを発表し合い、新幹線に乗って帰りました。新幹線では最初は会話を楽しんでいましたが、疲れてほとんどの子は寝てしまいました。

おわりに

とても貴重な体験ができました。この広島での経験を通して尊い命をたくさん奪い、被害に遭った人を苦しめ続ける、原水爆も、戦争も二度とあってはいけないと思いました。原水爆や戦争のない世界を実現するためには自分から学んだことを発信していかなければならぬと考えます。そして、自ら学ぶように一人一人が意識しなければならないと思います。そのようにして未来に受け継いでいくことが大切なのだと思います。

『原爆絵画展学生ボランティアの皆さんのがん』

城西大学現代政策学部3年 猪鼻啓人

昨年に続き原爆絵画展に参加して今年はより深く原爆や戦争、平和について考
えることができました。特別企画の「若者が考える原爆」では、戦争の起る原
因やどうしたらなくせるかといったテーマについてパネリストとフロアの人達
が意見を共有できてとてもよい企画になったと感じました。原爆絵画展に参加す
る前だったら一年に一度でも考えずに避けてしまいそうな原爆や戦争について
真剣に考える良い機会になったと思います。どう次の世代に伝えていくかという
テーマもありましたが体験を伝えられる人が年々減る中ではやっぱり自分自身
で知ろうと思い足を運んで学ぶことが大切だと思いました。そのためにも知る機
会をなるべく逃さずにこれからも学んでいけたらと思います。2日間参加させて
いただきありがとうございました。

城西大学現代政策学部3年 大串 巧実

今回で原爆絵画展に参加するのは2回目で、去年に参加していた時に感じてい
た原爆の悲惨さや原爆がこの世の中にあってはいけないという気持ちを再び思
い出すことができました。普段の生活では原爆に対する恐怖心は感じることが出
来ず、原爆について考える時間が少ないように思いました。しかし、それは日本
が平和である証拠であり、戦争が身近ではない証拠であると思います。だからこ
そ原爆について考えられる時間があるのでしっかりと原爆について考えていく
必要があると思いました。今回参加したことで再び原爆について考えることができ
たので、定期的に原爆について考えることの大切さに気づきました。しっかりと私達若者
が原爆について考えることがこれからとても大切になると思いました。2日間ありがとうございました。

城西大学現代政策学部3年 糟谷 爽

原爆絵画展に参加するのは2回目で、今回は1日だけの参加になりました。今回特に印象に残っているのは若者トークの時間です。去年は行われなかった企画でとても良い企画だと思いました。若者はこのような機会がなければ自主的に意見を発信できる人は少ないと思います。私自身もそうですし、今回の企画で意見を発表することもとても緊張しました。けれど意見を交換することで新しい発見もできるし、微力ながら平和に近づいて行くことが出来ると思います。この原爆絵画展を通して、ここに来る前より原爆がもたらす被害について理解を深められることは確かですが、完全に理解できるようなことでも無いと感じました。でも原爆について知ろうとするきっかけとなることができるこの原爆絵画展はこれからも継続して続けていくべきだし、1人でも多くの人に原爆の恐ろしさを知って欲しいと考えました。宜しくお願ひ致します。

城西大学現代政策学部3年 北村悠人

昨年に続き、今年もボランティアとして原爆絵画展に2日間参加しました。この2日間、改めて戦争の恐ろしさ、今がどれだけ平和で幸せなのかということを考え、認識する良い機会になりました。また、25日の特別企画「若者が考える原爆」では、パネリストとして絵画展に参加した感想や、戦争の起こる原因、どうしたら戦争をなくせるか、どう次の世代に伝えていくか等について自分の意見を発言する機会をいただきましたが、緊張して上手く言葉が出てきませんでした。自分以外のパネリストの意見やフロアからの意見を聞き、自分の考えがまだまだ浅く原爆や戦争を表面でしか捉えてないと感じ、もっともっと深く捉えて考えていいきたいと思いました。このような機会は日々の生活では、なかなか体験できるものではないので感謝しつつ、原爆絵画展のような活動がこれからも続き多くの人に知ってほしいと思いました。2日間ありがとうございました。

今年も原爆絵画展のボランティアに参加させていただきありがとうございました。今回のボランティアでは、戦争について深く考える良い機会となりました。今年は、昨年とは異なり、戦争には加害者もいるということを考えさせられました。また、今年から始まった学生企画を通じて自分と他人の原爆、戦争に対する考え方を共有することが出来とても良い経験をすることが出来ました。この 2 日間で戦争に関する知識を増やすことが出来ました。また、機会がありましたら参加したいです。2 日間ありがとうございました。



2 日間の展示を終えたスタッフ全員集合。これから撤収作業です。

2019年8月24・25日寄せられた参加者の感想文

- *せんそうになりませんように。(幼児・女・深谷市)
 - *まだよくわからなかつた。(幼児・女・練馬区)
 - *せんそうになってほしくないです。(小2・女・深谷市)
 - *げんばくはもってはいけない。(小2・男・坂戸市)
 - *むかしの絵がいっぱいある(小3・女・坂戸市)
 - *にんげんがしんでいるのがきもちわるかった。せんそうはいやだ、しにたくない。
(小3・男・東京)
 - *気持ちがふくざつだった。今年は平和しりょう館にも行って戦争にもきょうみを持ちました。(小4・女・坂戸市)
 - *せんそうになりませんように。(小4・女・深谷市)
 - *原ばくドームを見て、このようなほうかいしたたてものかと思うと、とてもこわいです。戦争がなくなればいいですね。(小5・男・坂戸市)
 - *絵を見ただけで、すごいことがおきたと思った。(小5・男・川越市)
 - *戦争のこわさを絵で知ることができました。お話もすごいと思いました。戦争のにおいも忘れる、おぼえている人がなくなる・・・、戦争がないように・・・。
(小6・女・他市)
 - *あまり原爆の事を考えた事がなかったけど、ここにきて、絵や写真みて、原爆のおそろしさをはだで感じた。(小6・女・坂戸市)
 - *核兵器の恐ろしさ、被爆者の苦しみが絵で伝わりました。(中1・男・坂戸市)
 - *こわい。(中1・男・川越市)
 - *原爆の悲劇についてあらためて知ることができました。(中3・女・鶴ヶ島市)
-
- *原爆について初めて深く知ったのが「はだしのゲン」とNHKスペシャルでした。本日生で被爆者の方のお話を聞いて、広島の様子がとても地獄の様だったと感じました。良い経験になりました。また、今、世界では、核兵器というものが軽視されていて、時代が戻ってきているように思いとても危惧しています。日本国憲法前文にあるように、日本人として、世界の恒久平和を望み、その一歩として核兵器禁止条約があり、日本政府も批准して欲しいです。世界の恒久平和は、理想論と言われるかもしれません、日本人として改めて強く望みます。有難うございました。(高3・男・坂戸市)
 - *改めて原爆の恐ろしさを知りました。二度とこういう事が起こらない事を祈っています。そのためには一人一人の意思、真実から目をそむけてはならない。今一度行動を改めたいと思いました。自分も東日本大震災の経験をしているので他人

事とは思えません。(20代・男・坂戸市)

*今まで広島では被害者でしたが、日本は加害者であることに気が付かされました。
(20代・男・坂戸市)

*去年に続き、今回も広島原爆絵画展を開催して頂き有難うございます。広島・長崎原爆は、地震とは違って自然災害ではなく、人の行動から生まれる災害です。自然災害から生まれる悲しみと人的行動から生まれる災害での悲しみでは、事の大きさ、重さが違うと思います。(20代・男・坂戸市)

*去年もボランティアとして参加させて頂きましたが、去年よりもイベントや展示物も増えていて、お客様により分かりやすい絵画展になったと思います。
(20代・男・坂戸市)

*知識よりも自分の目で見て耳で聞く方が、原爆がとても悲惨であることが分かった。若者のトークショーで、自分の大切な人が戦争で殺されても相手の国を恨まないでいられるかを聞きたかった。(20代・男・坂戸市)

*戦争の事を知る貴重な機会になりました。また、自ら、もっと深く考えさせられる時間となりました。(20代・男・坂戸市)

*昨年に続き参加させて頂き、戦争について考える良い機会になった。今年初めておこなった特別企画「若者が考える原爆」についてはパネリスト、フロアどちらからも沢山の考えが出てきてうまくいってよかったです。有難うございました。

(20代・男・川島町)

*今回、昨年に続くボランティアとして参加させて頂きました。原爆・戦争について改めて考える良い経験になりました。特に「若者が考える原爆」では、とても良い意見を聞くことができました(20代・男・上尾市)

*自分沖縄では平和大使なので、戦争、原爆には興味があった。学生たちが描いたと聞いて、興味がありました。とてもうまく描かれていて、とても心にしました。改めて戦争は絶対ダメですね。(20代・男・那覇市)

*10年ほど前の8月に広島に行ったことがあります。戦後74年がたち、戦争の事を伝えられる方が少なくなっています。この様な絵画展は大変貴重なので今後も続けていってほしいと思いました。(30代・女・坂戸市)

*オルモの看板を見て立ち寄りました。予想以上の悲惨さに言葉が出ませんでした。
(30代・女・坂戸市)

*戦争体験者のお話が聞けて良かったです。戦争の怖さを感じました。有難うございました。(30代・女・鶴ヶ島市)

*若者トークに間に合わずとても残念。子どもには絵より写真の方が響いていたようです。(30代・女・練馬区)

*子どもたちのために戦争にならないよう。(30代・女・埼玉県内)

*被爆当時の様子がよく分かりました。（30代・女・埼玉県外）

*十数年ぶりに「戦争」や「原爆」について考えることができた良い2日間でした。

普段、何気なく生活している中では、中々気にするテーマではなかったですが、いろいろな作品を見たりお話を聞き、改めて事の重大さを意識しました。武井さんからの二つの問であった〈戦争が起きたらどうするか〉と〈戦争を起こさない様にするにはどうしたら良いか〉書いてみます。

〈戦争が起きたらどうするか〉

人を攻撃するという手段を除いたあらゆる手段を使って、大切な人を守ります。それと同時に、自分の身を守る様逃げながら考えます。

〈戦争を起こさない様にするにはどうしたら良いか〉

物理的に考えるのであれば、人を殺めるために作られた兵器の全廃が一番だと思います。その為には、防衛に関するいろんなルールを作らねばいけませんが。

理想的に考えるのであれば、争い事が起きたとき、武器を持たずに、とにかく「話し合い」で解決するという事です。

人は自らの幸せを追求すると、自己の利益や思想、それが国であれば、国益や領土問題などたくさんのが出でてきます。その中で、お互い、意地やプライドを捨て、折れるところは折れて話し合いをすることができれば戦争が起こる事はないと思います。それがダメなら、地球上から人間がいなくなるしか方法がないかと思います。

〈余談〉 戦争は100%反対です。普段の生活や戦争でも同じですが、大人の勝手な都合で人を傷つける事はあってはならないと思います。それが、未来ある子ども達ならなおさら。この気持ちをずっと持ち続けられる大人でいたいと思います。最後に、この企画に誘ってくれた後輩と武井さんに感謝しています。有難うございました。（30代・男・坂戸市）

*風化させないようすることが大事だなあと感じました。（40代・女・坂戸市）

*今日は暑く、人が集まっているのか？と思いそっと来ましたが、大勢の方が来てびっくりしました。沢山の方が問題に取り組み、考えていると感じました。戦争の無い世界になるまで続けるべき活動だと思います。（40代・女・坂戸市）

*代表団の報告をして下さった西野さんと同じで、娘もこわがって原爆の写真を見たがらなく、知りたがらないので全く知識がなく、私自身も伝えるほどのものがないので、今日をきっかけに知れたらうれしいと思いました。有難うございました。（40代・女・坂戸市）

*小さい頃に授業を受けて知った戦争の現実を思い出し、定期的にこういう催しで再確認が必要と思いました。これからも頑張って続けて下さい。

（40代・男・坂戸市）

- *毎年寄らせて頂いてます。末永く活動が続きますように。(40代・男・坂戸市)
- *毎回思う原爆の恐ろしさ!今まで、なってほしくないが戦争に共感している國民がいることがとても怖い。少しでもそういう國民は、今回みたいな原爆展を観て考え方を変えてももらいたいと思う。その中、今回も学生ボランティアが沢山参加。トークイベントも若者のいろんな意見が出て良かったと思った。これを他の若者と共有してもらいたい。あと、最後まで裏方もこなしていたので、とても良かったと思う!!(40代・男・坂戸市)
- *昭和の時代が終わり、平成から令和の新しい年号になりました。これから時代は平成育ちのおとな達が、令和の子ども達を育てていきます。僕は昭和生まれですけど、戦争については夏休みの読書感想文で「ガラスのうさぎ」や「はだしのゲン」を書いた覚えがあります。また、合唱コンクールでは、「戦争を知らない子どもたち」も歌いました。映画でも「俺は、君のためにこそ死にいく」「男たちの大和YAMATO」「きけわだつみのこえ」などで知りました。これからは原爆を受けた人たちがどんどん亡くなり、時代が新しくなり、原爆ドームも腐食が進むと取り壊されるんじゃないかと、とても心配しています。僕は軽い知的障害ですが、まだ広島に行ったこともありません。もし行けるチャンスがあれば是非とも参加したいです。(40代・男・坂戸市)
- *このような展示を続けて下さり有難うございます。絶対風化させてはいけない出来事だと思います。(40代・女・鶴ヶ島市)
- *紙芝居、被爆者のお話、ヒロシマ子ども代表団報告を聞かせて頂きました。貴重なお話有難うございました。平和を考える場が増えたらいいと思います。毎年気になっておりましたが、初めて来させていただきました。有難うございました。(40代・女・鶴ヶ島市)
- *家族で見ることができ良い機会でした。(40代・女・鶴ヶ島市)
- *紙芝居「コスモス」に感動しました。また、お話も、被爆者の方の74年間の苦しみが伝わってきました。昔はイナゴが食用だったとか、「コスモス」の話もびっくりしました。(40代・女・鶴ヶ島市)
- *その日のことを忘れずに、これから平和を、人と人と仲良くすることで作っていきたい!(40代・女・東松山市)
- *原爆と原発を並立して展示しているのがいいと思いました。同じくらい危険なものであることを再確認しました。(40代・女・川越市)
- *原爆は悲惨と思いました。(40代・男・川越市)
- *戦争の残酷さがよく分かりました。津波の災害も大変だったのですね。(50代・女・坂戸市)
- *若い人たちにも伝えてほしいので又機会を作ってほしい。(50代・女・坂戸市)

*被害者の話、もう少し時間を持って頂いたらと思いました。（もっと詳しく伺いたい）。子ども代表団の報告、素晴らしいと思います。子どもたちの話も聞ければと思います。（50代・男・坂戸市）

*高校生の時の文化祭で（このような展示ではありませんでしたが）、各国大使館に手紙を出し、原爆に対してどのように考えるかを問い合わせ、その返事を展示したことを思い出しました。（50代・男・坂戸市）

*関係者が多くゆっくり見られなかった。（50代・男・越生町）

*直接体験された方はどんどん減っていく中、絵は残ります。このような催しは後世に伝えていくうえでとても有意義だと思います。今後も続けてほしいと思います。（50代・男・坂戸市）

*改めて、戦争のない世界の大切さを痛感しました。一つ一つの絵を見ていると自然と涙があふれてきました。一人でも多くの人にこの事実を知ってほしいし、我々の子どもたちに、戦争の事実を伝えていくことが私たち世代の責任ではないかと感じました。この活動がもっともっと大きな活動になることを願っております。また少しでも協力していきたいと思います。（50代・男・さいたま市）

*戦争の悲惨さを忘れないよう真実を知るために、多くの人たちにこの絵画展を見てほしいと思いました。有難うございました。（50代・女・さいたま市）

*平和紙芝居はとても上手で心打たれました。被爆者のお話は、生きしく恐ろしい情景が浮かびました。原爆の残酷さにとてもショックを受けました。

（60代・女・坂戸市）

*毎回見せて頂いています。最初の頃の本物の絵に比べると、迫力やあのゾクッとなるような感じが不足すると思います。レプリカは分かり易い説明が付いていて、それなりに良いとは思います。ところで、現在も、とてもキナ臭くて心配な世の中です。絶対に戦争をしてはいけないと改めて思います。（60代・女・坂戸市）

*以前見たときは原本でした。今回は複製画になっていたのできれいだったけれど、心に届く迫力が欠けていて残念でした。1～2枚でも原画があればよかったです。

（60代・女・坂戸市）

*本が紹介されていて手に取れたのが嬉しいです。（60代・女・坂戸市）

*また続けて下さい。（60代・男・坂戸市）

*毎年企画してください。小・中・高生にも参加をPRしてください。
（60代・男・坂戸市）

*トークタイムに高校生、大学生が沢山参加されて話されたのが大変よかったです。今日8月25日は埼玉県知事選挙の投票日で、学生さんも行かれたならばよいと

思い、若い人が多くのイベント等に参加され、戦争の話をされて、戦争に反対、9条を守ることを願います。（60代・男・坂戸市）

*不確実にして不明！メビウスの環、・・。今とは結びつかない。一説に、日本国、以来よりの旧友アメリカ国との交流めざましく、アメリカを要望した日本国民は多くおり、特にこの広島は、アメリカとの民間交易の輸出入の互いの心血結ぶがごとく、熱意懇願のアメリカ国との同じ釜の飯を喰うた朋友なれば、異型アメリカ人にならんと欲する。だが、その形は悪かった。ヒロシマは魂を返せ！とか慰めよ！とか礼文をよろしくとか言う区別はない。彼らヒロシマの人々にとってそんな詩文よりももっと、覇氣あるものこそが、彼らヒロシマの人々への魂を振るわせる強者たるものこそが福祉と思う。（60代・男・坂戸市）

*原子力の問題、恐ろしさを痛感しました。絵画展を有難うございます。
(60代・女・東松山市)

*先日、長崎佐保市で原爆写真展許可しなかった。ニュースで見て、自治体によつて随分差がある。坂戸市の取り組み継続して頂きたい。（60代・男・川越市）

*発言の分量で年寄りは話が長いが、それを止める方法は難しいのが実情でしょう。ではどうするか。話し方の練習をしなければとは思うが。テクニックとして、司会者が「ありがとうございました」と話を切るといいのではないか。「すみませんが」ばかりでは厳しい印象がありました。独自の掲示物ご苦労があったと思います。やや全体のセクションごとの表題があった方が？（60代・男・毛呂山町）

*今年も原爆絵画展の開催良かったです。会場も原爆絵画をはじめ、悲惨な戦争の記録・写真各資料展示、東日本大震災、福島第一原発事故放射能による厳しい生活他残された核のゴミについての展示色々、初めて知った事もあり考えさせられました。上映ビデオ〈黒い雨に打たれて〉を見て、戦争の恐ろしさと被爆二世の方たちの辛さも知りました。ありがとうございました。（60代・男・毛呂山町）

*体験談のお話、目の前に浮かぶ情景、原爆症との闘い、苦しい思い、痛切に感じました。戦争は決してしてはいけません。（70代・女・坂戸市）

*以前、東松山の丸木美術館に行きました。あまりのすさまじい絵で、子どもと目をふさぎたくなった思い出があります。しかし、もっと怖い現在の世の中になつて、本当につくづく戦い・平和の繰り返しがあるのだろうか。これからの中達若者たちに、日本や他国の平和を作つて頂きたいと願うのみです。

(70代・女・坂戸市)

*戦争は決してしてはいけないと思います。若い人にも、もっと戦争の恐ろしさを知ってもらいたい。（70代・女・坂戸市）

*広島・長崎の問題には大変興味がありました。一生の内には現地を訪れたいと思っていましたが、72歳になってしまい行けるかどうか？でも本日参加出来、少

しは安心の気持ちです。ありがとうございます。(70代・女・坂戸市)

*原爆の絵は広島に旅行で見てきました。絵でもとても胸が痛くなります。

(70代・女・坂戸市)

*友人に誘われて参加してみました。私の誕生日が8月6日ということで原爆投下には関心がありました。お話や絵画を通して少しあ大切さを知りました。

(70代・女・坂戸市)

*〈被爆者の原明範さんのお話を聞き〉原さんご本人が淡々とした口調でエノラゲイから投下された状況、その惨状、ご家族の被爆、そしてご本人が母体で被爆されていたことが戦後数十年にして現れ、いまだに体内でうごめいている、苦しんでいるお話は身の引き締まる思いで拝聴しました。(70代・女・坂戸市)

*『黒い雨』という本を読んでから、ますます心に深く思いをはせるようになりました。(70代・女・坂戸市)

*二度と戦争することが無いよう、若い人が知識を持ってほしい。

(70代・女・坂戸市)

*特別企画『若者が考える原爆』トークは大変興味深く拝聴しました。若い方からの「被害者の戦争ではなく『加害者として』の戦争を考えなくてはならない」という発言に感動しました。こんな頼もしい若者が近くにいるんだということを知り、将来まだまだ捨てたもんじゃないと希望が湧きました。(70代・女・坂戸市)

*核廃絶・原発廃止の為にも、益々こうした取り組みが必要(70代・男・坂戸市)

*悲惨な戦争や災害は二度と起こしたくない。(70代・男・坂戸市)

*ボランティアの人の話がうるさい。(70代・男・坂戸市)

*原爆被害を忘れないようにする為、この原爆絵画展は続けなければなりません。応援します。(70代・男・坂戸市)

*①丸木美術館の絵も欲しかった。②丸木美術館にカンパ箱を置いたら！

(70代・男・坂戸市)

*戦争は絶対にしてはなりません。(70代・男・坂戸市)

*誰でも戦争はイヤだという。しかし、戦争のきっかけはなかなか見抜けない。民主主義が失われていく歩みが戦争への一步。今、日本の政権はもっとも危険な状況にあるように思う。アメリカにベッタリ。韓国を非難し、正義ぶっている。国民がマスコミにおおられ、政権を支持していく。(70代・男・坂戸市)

*戦争は人(時の権力)が起こすもの。恐ろしいことです。原発を廃止に。(放射性廃棄物は処分できないので)(70代・男・坂戸市)

*私、1943年生まれ、76歳です。私の父は戦死しました。当然父のことは全く記憶がありません。私は、物心ついた時から戦争・平和について常に考えてきました。体験・経験しておりませんが、知識として知っています。戦争ほど愚かなこ

とはありません。絶対悪です。これから時代、未来を背負う若者がどのように考えているのか聞きたくて参加しました。大いに期待しています。限られた時間ですので、じっくり話し合えないと思います。機会があったら話し合いをして深めることができたらと思います。(70代・男・坂戸市)

*二度と核を使わない方法を考える。(70代・男・坂戸市)

*平和のありがたさを思い知らせました。(70代・男・坂戸市)

*30年以上前になりますが中学校で教壇に立っていた時、修学旅行で広島に行きました。従来までの、京都・奈良の見学・学習も実施するという計画はかなりきつい日程でした。事前の学習で、広島の事、平和の事等々生徒たちと頑張った記憶があります。広島では、原爆ドームを目に焼き付け、千羽鶴の少女像にひとり人が作った鶴を納めてきました。平和公園の資料館で被爆者の声をイヤホーンで聞くのに長い列ができていました。今、50代にさしかかろうとしている彼らの記憶の中に、何か残っているものがあるとしたら、うれしい限りです。

(70代・男・滑川町)

*戦争絶対反対です。(80代・女・坂戸市)

*戦争ハンタイ。(80代・女・坂戸市)

*日本は被爆国です。お話を伺い本当に戦争はひどい等と繰り返す言葉より、微力でも皆、一人人が意識を持って、核、原爆を無くすことを考えていく必要を訴えます。無力ではないことを知りました。今日のお話ありがとうございました。
(80代・女・坂戸市)

*戦争も、原爆も絶対無くさなければいけないと思います。(80代・女・坂戸市)

*この世の中に核が無くなることを願います。孫たちの世代にこそ、この原爆の絵を見てほしい。悲惨な戦争は絶対繰り返してはならないと心から思います。

(80代・女・坂戸市)

*若い方の発言の場を知りましたので是非参加したいと思いました。体験された方の生々しいお話、言葉を失いました。よく生き延びられたと思いました。これまで関心がなかった学生さんが一寸したきっかけで、広島を経験されたとの事。知らされることの大切さを思いました。(80代・女・東松山市)

(原文のまま)



2019 年度坂戸市「少年の主張」中学生の部 最優秀賞

「あの夏の記憶」

浅羽野中学校 3年（当時） 日下 歩美 さん

終戦後 73 年、戦争を経験している人は日本人の約 20%、戦争の悲惨さを伝える人が少なくなって来ている。しかし、戦争を経験した人たちの苦しみや悲しみは、何年経っても消えることはない。

先日私は「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」に行ってきた。広島の市民が描いた絵や戦争の写真などが展示されていた。特に衝撃を受けたのは、実際に広島で被爆された 89 歳の女性の話を聞いたことだ。私は今まで一度も、戦争を経験した方の話を直接聞いたことがなかった。身近な人に聞く機会が何度かあったが、怖くて聞けなかった。しかし、今回直接聞いたことで、学ばなければいけない事だと、改めて感じた。

8月6日午前8時15分原爆投下。当時16歳の女性は3キロ離れた場所で看護師として働いていた。物凄い爆風で二度氣を失ったというが大きな怪我はなく無事だった。辺りには、今では考えられない光景が広がっていた。体中の皮膚が垂れ下がっている人。手や足、頭がない人。体にガラスや木が刺さっている人。そして電線には吹き飛ばされた手足がひっかかっていた。私はぞっとした。自分自身、家族、友達がそうなっていたらどうしただろう。怖くて逃げたかもしれない。それでも女性は3日も休むことなく看病した。しかし手当てするものは、何もない。水もない。あるのは近くの海にある海水。ドラム缶1つのバター。海水でただれた体を洗い流しバターを体に塗り、乾燥しないようにした。女性は、体にバターを塗った感覚は、なんとも言えないものだったと教えてくれた。あの時の記憶は、いつになんて消えず、たまに思い出すと怖くなるという。途中で言葉をつまらせながらも、必死に私たちに伝えようとしていた。怖いかかもしれない。それでも真実を知り、想像し、考えることが大切なんだと教えてくれた。

広島には生命力のシンボルとして、アオギリという木が残されている。被爆し枯れ木同然だったが、奇跡的に翌年の春になり芽吹いた木だ。この種がアオギリ二世として、全国や海外にまで贈られ、平和を考えるきっかけになっている。浅羽野中学校にも植えられているそうだ（左下写真）。こんなにも身近に、平和を訴えようとしているものがあることを、はじめて知った。私は今まで戦

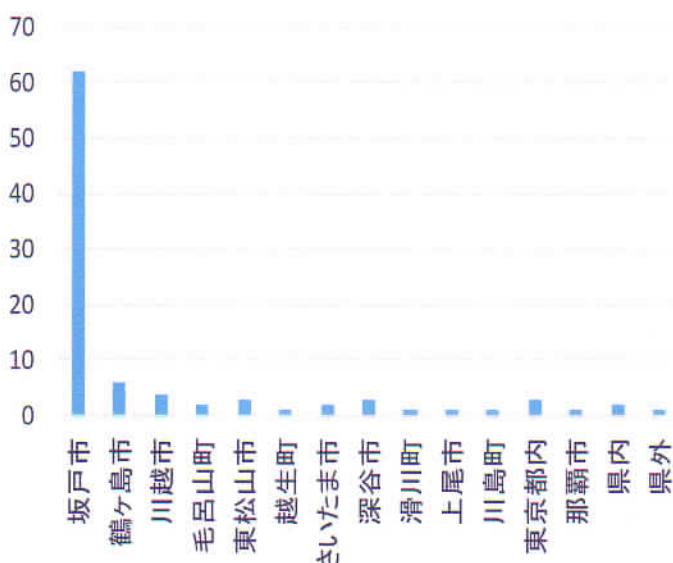
争に目をそむけてきた。しかし向き合っていくことが大切なのだ。今でも苦しんでいる人はいる。それでも伝えようしてくれている。だからこそ真実を知り、次の世代に語り継いでいくこと。小さなことかもしれないが、私たちにできる唯一のこと。私たちは伝えていく必要がある。時間が経っても戦争の悲惨さを決して忘れてはいけない。73年前のあの夏の悲劇を繰り返さないためにも。（ご本人の承諾を得て一部要約させていただきました。）



2019年8月入場者の住所(アンケートより)

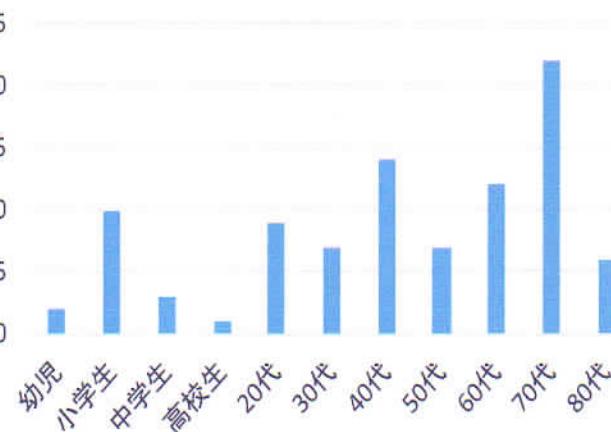
自治体名	人 数
坂戸市	62
鶴ヶ島市	6
川越市	4
毛呂山町	2
東松山市	3
越生町	1
さいたま市	2
深谷市	3
滑川町	1
上尾市	1
川島町	1
東京都内	3
那覇市	1
県内	2
県外	1
合計	93

アンケートによる入場者数



年代別入場者	人
幼児	2
小学生	10
中学生	3
高校生	1
20代	9
30代	7
40代	14
50代	7
60代	12
70代	22
80代	6
合計	93

年代別入場者数



原爆絵画展の成功のために
私たちも協賛します

2019年8月24・25日に開催された原爆絵画展に多くの方から協賛金が寄せられました。

お名前の出せる方のみ、以下に掲載させていただきました。

ご協力を感謝します。（敬称略・順不同）

安藤道夫・安藤克江・青木 亘・浅野毅彦・石黒京子・池辺義文・池辺悠子
板倉 聰・牛田毬子・上田典男・内田美保・大山英治・岡野 進・小鷹勝子
岡野 勉・大北満子・小川節子・加藤 咲・川村訓史・金子 博・熊谷憲治
越川 求・小林美幸・小島喜代子・斎藤里子・榎原祐子・佐藤昭弘・佐藤公子
佐藤満世・白石俊夫・白石美恵子・清水 誠・清水はるみ・田邊 恵・田中昭子
高柳允子・武井久美子・武井道子・武井美由子・武井 誠・武井真人・武井真澄
高比良伶子・玉之内明徳・津嘉田和子・千島理子・千島悠生・辻谷清江・徳升悦子
中澤正治・中澤てる子・中澤きよみ・中澤雄一・中野京子・中津喜一・長嶋アイ
西野ひかる・成瀬武夫・野口巳義・花田勝夫・林 まり・橋本房江・橋本蓉子
長谷部操・馬場勝彦・林 順吉・戸来 誠・間仁田香代・町田武俊・町田敬子
丸茂富子・水沼武彦・水沼安美・水沼義之・水沼祐之・水沼和之・武藤昭子
森田幸子・安田佳子・山本弘子・山崎幸雄・山岸和美・ヤロ ムサ ジャック
依田吉子・米山美智子・吉田照秋・きままや

坂戸市 坂戸市教育委員会 坂戸市議会議長

鶴ヶ島市

埼玉教職員組合入間北単組 社会民主党坂戸総支部

会場カンパ

ほか多数ご協力いただきましたこと、慎んでお礼申しあげます。

なお、誤字、記載もれ等失礼がございましたらご容赦ください。

[原爆絵画展ボランティア・スタッフ]

青木・浅野・池辺・上田・岡野・加藤・川村・桑原・越川・佐藤・白石（俊・美）
武井（誠・真）・中野・西野・服部・町田・安田・山崎・山口・吉田・荒木・笠田
志摩・田中・城西大学生ボランティア（猪鼻・大串・糟谷・北村・傳法谷）



発行 原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会
(問合せ先... 049-289-2527 武井)